

組織目標評価報告書（令和7年度）

部局名：自然生命科学研究支援センター		部局長名：窪木 拓男
目 標		目標に対する達成状況(成果)及び新たに生じた課題等
①教育領域		
		教育領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
・自然生命科学研究支援センター内の各部門において、各種教育訓練(法定放射線業務従事者教育訓練、法定動物実験教育訓練、組換えDNA実験の教育訓練等)を実施することで、学内のコンプライアンス教育を推進する。 ・自然生命科学研究支援センター内の各部門において、各種研修会、セミナー及び講習会(動物実験施設利用者研修会、動物実験関連セミナー、動物実験初心者実技講習会、動物実験計画書立案・書き方相談、ゲノム・プロテオーム解析に関する技術・実技講習会、機器利用説明会、機器分析セミナー等)を開催することで、利用促進及び利用者のスキルアップに貢献する。 ・一般教育科目や各学部の専門教育科目の一部を担当する等、自然生命科学研究支援センター内の各部門が協働して実施可能な教育プログラムを企画・立案することで、本学の自然生命科学研究分野の教育の高度化に貢献する。 ・学生マイスター制度の訓練生を受け入れ、機器分析技術の教育を行うことで、本学研究設備の効率的な充実化と共同利用等による有効利用を促進するとともに、設備の操作等に熟練した学生スタッフを育成し、共同利用研究設備を取り扱う技術支援の高度化を図る。		・自然生命科学研究支援センター内の各部門において、各種教育訓練を実施することで、学内のコンプライアンス教育を推進した。 ・法定放射線業務従事者教育訓練を実施した(新規教育および再教育はmoodleで通年実施、実習は津島施設5回、鹿田施設4回)。 ・学部教育・大学院教育に携わった(医学部医学科「基礎放射線学」、医歯薬学総合研究科「研究方法論基礎」等)。 ・岡山理科大学のRI教育訓練を支援した。 ・有料のマウス／ラット実技講習会10回開催(マウスおよびラットでのべ42名参加) ・利用者研修(鹿田施設)13回開催(238名参加)、教育訓練を17回(うち英語版3回)実施(566名受講) ・IVIS講習会の開催 ・動物実験計画書立案並びに書き方相談を随時実施 ・一般教養講義、学部・大学院講義(遺伝子組換え実験を含む)・学部実習を担当。博士3名、修士4名、学部生10名の研究・教育指導(うち学生セミマイスター2名含む)。 ・ゲノム・プロテオーム解析に関する機器講習・実技講習を計3回、利用説明会を計141名に実施。 ・組換えDNA実験教育訓練8回実施。うち留学生用英語教育訓練2回。 ・組換えDNA実験の再教育訓練用moodleでの運用を作成。 ・共用機器利用説明会：9機種で11回開催。 ・対面またはリモートでの個別機器利用講習会／操作指導の受付：計205件 ・機器利用講習会5件 ・極低温分野安全講習会開催(6月4日:194名参加) 訓練生1人、セミマイスター3人、マイスター1人、TRI人 計6名の訓練・労務を管理
②研究領域		
		研究領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
・教職員の研究成果を論文として公表する(各部門1編以上) ・教職員の研究成果を学会で発表する(各教員1回以上) ・教職員は外部研究資金獲得のための応募を行う(各教員1件以上) ・教職員は学内外における共同研究を推進する(各部門1件以上) ・自然生命科学研究支援センター内の各部門が協働して実施する共同研究の企画・立案を行うことで、本学の自然生命科学研究分野の研究の高度化に貢献する。		・教職員の研究成果を論文として公表した。(光・放射線情報解析部門：5報、ゲノム・プロテオーム解析部門：3報、分析計測部門：4報) ・教職員の研究成果を学会で発表した。(光・放射線情報解析部門：9件、動物資源部門：2件、ゲノム・プロテオーム解析部門：招待講演1件、学会発表1件、分析計測・極低温部門：8件。) ・教職員は外部研究資金獲得のための応募を行った。(光・放射線情報解析部門：応募6件(うち4件獲得)、動物資源部門：研究代表者分の新規採択2件(科研費)、ゲノム・プロテオーム解析部門：10件、分析計測・極低温部門：応募5件) ・教職員は学内外における共同研究を推進した。(光・放射線情報解析部門：9件、動物資源部門：3件、ゲノム・プロテオーム解析部門：11件、分析計測・極低温部門：11件) ・光・放射線情報解析部門と動物資源部門で短寿命核種動物実験について共同で対応する体制を構築することで、本学の自然生命科学研究分野の研究の高度化に貢献した。
③社会貢献(診療を含む)領域		
		社会貢献(診療を含む)領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
・関連学会を通じた国の放射線関連法令施策への協力・助言を行う他、関連領域の学会及び協議会(動物実験関連領域の学会・協議会、全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会、機器・分析センター協議会等)の運営に携わることで、積極的に国や学会等へ関与し、自然科学研究分野の発展等に寄与する。 ・自然生命科学研究支援センター内の各部門が協働して実施する学外教育の企画・立案を行うとともに、各部門において実施する各種講習会(ゲノムプロテオーム解析に関する機器講習会・技術講習会、動物実験技術講習会、動物実験インターン実習、保有する共用機器にかかる機器利用説明会、機器分析セミナー等)を学外開放することで、学外向けサービスを積極的に推進する。 ・研修医向け法定放射線教育訓練の実施や臨床医教育の実施場所として動物実験施設を活用することで、臨床医教育に寄与する。 ・学外へのプロテオーム受託サービスの実施(中国地区国立大学間連携を含む)、SPring-8及び九州シンクロトロンとの連携・技術交流の企画、総合技術部の学外連携活動にコミットした地域企業向け依頼分析サービス及び分析技術相談の提供により、大学間連携や地域産業へ貢献する。		・関連学会を通じた国の放射線関連法令施策への協力・助言を行う他、関連領域の学会及び協議会に携わることで、積極的に国や学会等へ関与し、自然科学研究分野の発展等に寄与した。(日本アイソトープ協会支部委員、日本原子力学会支部委員、京都大学複合原子力科学研究所が主催する厚労省事業「黒い雨土壌汚染調査」に測定機関として協力、動物実験関連領域の学会・協議会の運営、全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会への参画、中国地区バイオネットワーク連絡会議への参画、国立大学法人機器・分析センター協議会出席等) ・自然生命科学研究支援センター内の各部門が協働して実施する学外教育の企画・立案を行うとともに、各部門において実施する各種講習会を学外開放することで、学外向けサービスを積極的に推進した。(ゲノムプロテオーム解析に関する機器講習・実技講習・利用説明会を3件学外開放(うち1件は分析計測・極低温部門と共同実施)、マウス・ラット上級技術講習会開催(実験動物技術者協会関西支部との共催)、専門学校生を受け入れてのインターン実習(動物資源部門)、共用機器利用説明会：5機種5回を学内・学外へ開催(学外公開と対面・オンライン併催により、学外参加者増加)) ・臨床医への法定放射線教育訓練の実施により、臨床医教育に寄与した。 ・学外のプロテオーム受託サービス：延べ3件(10サンプル、500,000円)・受託解析サービス：4件(20サンプル、275,000円)の実施、九州シンクロトロン光研究センター(SAGA-LS)との新規連携協定の締結等により、大学間連携や地域産業へ貢献した。
④管理運営領域		
		管理運営領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
・自然生命科学研究支援センター内の各部門が保有する設備・機器等の定期的な保守管理、更新、機能維持、法令遵守に努めるとともに、共用利用可能な機器の整備及び利用促進を行うことで、本学の研究基盤を強化する。 ・学内液体窒素及び液体ヘリウムを安定供給できるよう、供給体制の充実に推進するとともに、ヘリウムリサイクル構想(中四国・播磨地域におけるヘリウムガス回収・液化・再供給体制の構築)の実現に向けた体制整備・運用整備を行う。 ・研究支援の教育・研究に対する貢献度についてIRを進めるため、年度ごとに利用者の業績や利用実績を集計し、報告する。 ・コアファシリティポータル(CFPOU)を利用した共同利用機器等の予約システム及び利用料金計算システムの活用を推進する。 ・動物実験と組換えDNA実験が統合されたWEB申請・審査システムを整備する。		・自然生命科学研究支援センター内の各部門が保有する設備・機器等の定期的な保守管理、機能維持、法令遵守に努めるとともに、共用利用可能な機器の整備及び利用促進を行うことで、本学の研究基盤を強化した。(光・放射線情報解析部門において、改正法令対応に関する放射線測定機器の信頼性確保点検の実施。ゲノム・プロテオーム解析部門による組換えDNA実験の安全管理に関する講習会への参加(4回)、利用研究室数43、利用者数277、論文数219(うちQ1論文割合63.1%、Top10%論文割合9%)、学外の機器共同利用に関する外部資金6件獲得。分析計測・極低温部門による全17測定室の共用公開機器45機器(うち直営34機器、他部局設置11)の適切かつ安全な管理運営。推設備リユース・設備共同利用の仲介WEBシステムを運営し、リユース機器21件、共用機器442件の情報を公開。イベントや設備サポート情報等のお知らせ13件公開、機器別利用実績をWEB公開。 ・ヘリウム液化機更新工事(一期)が順調に進行中。 ・ヘリウムリサイクル構想においては、5機関でフェーズ1の展開が完了。年度内にあと2機関展開予定。 ・IR推進のため、各機器の論文実績の収集を実施。 ・動物資源部門とゲノム・プロテオーム解析部門が連携して、新しいWeb申請・審査システムを計画・立案することにより、動物実験計画書と組換えDNA実験計画書の申請と審査の効率化を図った。
⑤センター・機構等業務		
		センター・機構等業務における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
・TCカレッジのサテライト校として、医工系コースのカリキュラム編成に参画し、マウス・ラット実技講習会の実施や見学行事等に協力することで、技術職員の高度化に貢献する。 ・全学共同利用研究施設の管理・共用運用への支援を行うとともに、研究設備機器共用システムであるコアファシリティポータル(CFPOU)の新機能の試行を担当することで、研究設備・機器の全学的マネジメントを推進する。 ・学内の組換えDNA実験コンプライアンスを徹底するとともに、組換えDNA実験の新しい申請・審査システムの運用を開始し、複数回の利用説明会を開催することで、コンプライアンスを徹底しつつ、申請者と審査員の負担軽減を推進する。 ・自然生命科学研究支援センター内の各部門が協働し、センター全体としての教育・研究支援体制の構築と産学共同センターとして役割を担う組織構築の企画立案を行うことで、自然科学領域の教育・研究の高度化、学際領域の融合、先端研究の推進、社会との連携等の進展に対応した支援体制を強化し、もって教育研究の進展に資する。(全学的な放射線施設、RI、核燃・国規物、エックス線装置管理及び従事者関連業務への支援並びに獣医学的技術を用いた動物実験のサポート(共同研究を含む)、組換えDNA実験の安全主任者向け審査用講習会の実施、機能性分子構造精密解析システムにかかるゲノム・プロテオーム解析部門及び分析計測・極低温部門による連携運用等)		・TCカレッジ医工連携コースにおいて、研究室見学企画に協力(1件)することで、技術職員の高度化に貢献した。 ・全学共同利用研究施設の管理・共用運用への支援を行うとともに、コアファシリティポータルサイト「CFPOU」にて、約480台の共用機器を公開中。ゲノム・プロテオーム解析部門、環境管理センター、R津島に範囲を拡大した。料金会計およびIR機能に関する機能の企画・試行・調整を行うとともに、IR促進のために、CFPOUへの共用装置別の論文実績収集機能を追加し、研究業績評価システムおよびPureとの連携を進め、研究設備・機器の全学的マネジメントを推進した。 ・動物実験計画書916件の事前審査を実施、組換えDNA実験計画書申請件数390件(審査会46回)。安全主任者向け審査用講習会を実施。動物資源部門とゲノム・プロテオーム解析部門が連携して、新しいWeb申請・審査システムを計画・立案することにより、動物実験計画書と組換えDNA実験計画書の申請と審査の効率化を図った。 ・自然生命科学研究支援センター内の各部門が協働し、センター全体としての教育・研究支援体制を構築し、自然科学領域の教育・研究の高度化、学際領域の融合、先端研究の推進に寄与した。(全学計量管理委員会を介して、全学各部局に散在する核燃料物質の回収作業を開始、全学エックス線教育訓練を実施、全学放射性同位元素等安全管理委員会を介して関係法令改正に対応し、エックス線装置の管理および教育について必要となる追加措置を実施、光・放射線情報解析部門と動物資源部門で短寿命核種動物実験について共同で対応する体制を構築し、協力して対応。分析計測・極低温部門とゲノム・プロテオーム解析部門が連携して質量分析装置を運用中。) ・動物実験のサポートとして中型動物麻酔支援を実施(9件)。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。